

近衛中学校 令和5年度前期学校評価アンケート

考察(全国学力調査生徒質問紙との比較から)

1, 学校教育目標【自主自律そして自治】への到達度
「社会や人とのつながりを大切にし 可能性を最大限に探究する たくましく生きる生徒」

Q, 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(社会や人とのつながりを大切にする)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	19.6	44.3	63.9
京都府	18.1	44.1	62.2
生徒	21→22	46→40	67→62

【考察】

前期は上回っていた項目であったが、後期の結果は全国、京都府と同等であった。5%ダウンの結果であった。教科(家庭科 高齢者理解)やキャリア教育として地域で「生き方探究チャレンジ体験」、地域行事の参加(節分祭)部活動(パレード)などで地域とのつながりを意識した活動も取り入れているが、その事を社会とのつながりと認識できていないのかもしれない。様々な体験などを通して、地域や社会と自分とのつながりを感じてほしいと思います。

Q, 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(可能性を最大限に探究する)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	15.3	39.7	55
京都府	13.7	37	50.7
生徒	15→20	41→36	56→56

【考察】

後期も前期同様の結果となった。自信をもって「当てはまる」と答えた生徒が増えていることで、よい方向にむかっていると思われる。自分で計画して学習を進める取組(マイコンパス利用)などを継続して行いたい。

Q, 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している(たくましく生きる)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
生徒	19→21	51→44	70→65
保護者	17→18	54→57	71→75
教職員	11→11	72→69	83→80

【考察】

ほぼ前期と変わらずである。生徒の数値が少し下がってしまったが、これからも教育活動の中で、挑戦する機会を増やし、また挑戦する気持ちも、教育活動の色々な場面の中で育てていきたい。

2, 自己有用感について (保護者、教職員アンケート含む)

Q, 自分には良いところがあると思いますか(生徒)

Q, 学校で子どもの自己肯定感は育まれている(保護者)

Q, 生徒の自己肯定感を高めるように指導方や活動の場の提供など努力している(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	37.2	42.8	80
京都府	34.5	43.6	78.1
生徒	34→38	48→41	82→79
保護者	31→24	57→59	88→83
教職員	55→54	45→38	100→92

【考察】

生徒の結果は当てはまると自信を持って答えた生徒が増えたことはよい結果である。ただ、保護者の結果が下がってしまったことと教職員の結果と連動している部分もあると思われる。来年度に向けて、教職員の指導方法の工夫や、活動の場の提供が課題となる。

Q, わたしは将来の夢や目標を持っている(生徒)

Q, 子どもは将来の夢や希望を持っている(保護者)

Q, 生徒は将来の夢や希望を持っている(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	39.4	26.7	66.1
京都府	36.4	27.1	63.5
生徒	33→36	32→31	65→67
保護者	17→24	48→43	65→67
教職員	5→11	89→85	89→96

【考察】

今まで全国より低い数値であったが、昨年度より全国と同等の数値となってきた。また後期は生徒・保護者・教職員ともに数値が少し上がったので、これからもキャリア教育などを通して将来の夢や希望を持てるような取組をしていきたい。

3, ICTの使用について (保護者, 教職員アンケート含む)

Q, 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(生徒)

Q, 子どもはコンピューターなどのICT機器を学習に役立てている(保護者)

Q, 生徒がコンピューターなどのICT機器を学習に役立つように授業で使用している(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
全国	58.7	34.6	93.3
京都府	56.8	35.3	92.1
生徒	48→50	43→37	91→87
保護者	30→33	58→52	88→85
教職員	37→31	53→54	90→85

【考察】

保護者の声から、タブレットの家での使い方が学習だけでないことに心配されている。今後も引き続きICT機器についての取り扱い方について、またICTを使用した学習方法についても学校と保護者と連携し進めていく必要がある。今年度インフルエンザによる学級閉鎖が3クラスあったが、オンライン授業の配信、ロイノート活用など大変スムーズに進められた。普段からの持ち帰りも定着しており、授業でも多くの教科がタブレットを使用していることで、緊急時もうまく活用できている。

Q, 携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校や家の人と約束したことを守っている(生徒)

Q, 子どもは携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について約束したことを守っている(保護者)

Q, 生徒は携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校で約束したことを守っている(教職員)

	当てはまる	だいたい当てはまる	計
生徒	40→40	50→47	90→87
保護者	22→21	56→51	78→72
教職員	16→12	79→77	95→89

【考察】

前期からは生徒の数値が下がり、それに伴い保護者や教職員も約束を守ることができなくなってきたと認識している。学年別にみると、1年生93%2年生85%3年生93%でした。1. 3年生が高い割合で約束を守れていると答えており、保護者は、1年生66%・2年生69%・3年生79%と回答している。1年生は生徒と保護者との間に差があるが、3年生などは両者の結果から、高校受験(検)などもあり、自分自身でも使い方に気を付けているように見とれる。また今年度は12月に防災時や日常でのSNSの使い方の講演もあり、携帯やスマホの使い方などを深めることができた。